実態調査

# 福岡県における「自宅以外で居住する透析患者」の実態調査報告

## ――2017年4月現在――

村石昭彦[*1,7]　下池英明[*2,7]　隈　博政[*3,7]　山下拓郎[*4,7]　本村謙一[*5,7]　百武宏幸[*6,7]

*1 村石循環器科・内科　*2 高橋内科クリニック　*3 くまクリニック　*4 山下泌尿器科　*5 本村内科　*6 百武医院
*7 福岡県透析医会

key words：透析，自宅以外生活，高齢化問題，実態調査，介護保険

### 要　旨

福岡県透析医会に所属する137施設において「自宅以外で居住する患者」（以下，自宅外居住患者と略）の実態調査を行った．2017年4月現在での慢性透析患者11,674人のうち953人（8.2%）が該当した．地区別，施設類別，入居施設併設の有無別，送迎サービスの有無別にて比較したが，県内の都市部と非都市部の地域差は大きく，有床診療所や病院においては高率で，入居施設を併設し送迎サービスを実施する施設で高率であった．今後の増加傾向に関して「急速に増える」と予想した施設は入居先との連携に問題点を抱えている場合が多く，病院ではその規模に関連して自宅外居住患者の自施設における将来増減予想に傾向の差がみられた．透析患者の高齢化や独居および高齢者のみの家庭の増加傾向は今後も続くことが予想され，住み慣れた自宅で暮らせなくなり介護関連施設への入所・入居や社会的入院を余儀なくされる患者の増加が予想される．有床診療所や比較的規模の小さい非急性期病院などが，自宅で暮らせなくなった透析患者の支援を行う重要な役割を果たしているが，地域包括ケアシステムを構築しながら透析患者の医療支援と生活支援を考えていく必要性はますます増えると思われる．

### はじめに

慢性透析患者数は緩やかながら増加を続けているが，導入患者の平均年齢は67.9歳と高齢者の相対的割合は大きく，増加速度も速い[1]．独居や高齢者のみの世帯も，透析患者以外の世帯と比べても少なくなく，大きな問題となってきている[2]．また糖尿病や腎硬化症を基礎疾患とする患者の増加および導入時年齢の高齢化もあり，身体的にも社会的にも大きな問題点を抱えながら週に3回の外来透析通院生活を行っている例が大多数である．しかし，社会情勢や家族構成の変化により，同居者の有無にかかわらず，介護施設や有料老人ホーム，さらにはいわゆる社会的入院など自宅以外での生活の割合が次第に増加していると思われる．介護関連入居施設も多様化する中で，家族の代わりを担う場合もある入居施設スタッフとの連携構築も重要さを増している．

2014年以降の福岡県における介護関連実態および予後等の調査を，第1～3報として本誌に報告した[2~4]．県透析医会理事会役員所属全24施設の調査では，2014年時点の自宅外居住患者の割合は8.2%であったが，今回は調査範囲を県透析医会全体に拡げ実態調査を行った．

調査は多項目に及び報告事項が多く，施設単位のア

The survey of a residence other than the home for dialysis patients by Fukuoka Association of Dialysis Physicians
Muraishi Heart Clinic/Fukuoka Association of Dialysis Physicians
Akihiko Muraishi
Takahashi Clinic/Fukuoka Association of Dialysis Physicians
Hideaki Shimoike
Kuma Clinic/Fukuoka Association of Dialysis Physicians
Hiromasa Kuma

ンケート調査報告を本論文でまず行い，調査対象に該当する各透析施設の「自宅外居住患者」単位で詳細に調査した内容を次回に報告する予定である．

## 1 対象および方法

### 1-1 調査対象

県透析医会会員が所属する全150透析医療機関（以後，施設と略）のうち91.3%にあたる137施設において，2017年4月20日現在における腹膜透析を含む全透析患者に対し居住状況に関するアンケート調査を行った．137施設の透析患者総数は11,674人（血液透析11,126人，腹膜透析526人，両者併用22人）で，県全体の全透析患者数（約15,000人）の約78%に相当する．

対象医療機関には，大学病院が3（患者割合1.1%，1施設平均透析患者数42.0人，うち腹膜透析患者数21人，1施設平均病床数900床），病院が58（同：41.7%，84.0人，8.0人，249床），有床診療所が29（同：25.4%，102.2人，0.3人，19床以下），無床診療所が47（同：31.8%，79.0人，0.3人，無床）含まれる．

県は医療行政上，福岡・北九州・筑豊・筑後の四つのブロックに区分されることが多く，県透析医会も4ブロックごとに様々な問題に対応している．137施設もブロック別人口におよそ比例して立地し，施設類別や規模を含め比較的偏らずに回答が得られており，県全体および各ブロックの透析医療の傾向を見るうえで十分に参考になる母集団と考えられる[2)]．

### 1-2 調査対象者の定義

今回の調査対象となる「自宅外居住患者」の定義は，血液透析か腹膜透析のいずれか，あるいは両者併用かにかかわらず，次の3タイプの慢性透析患者を想定した．

① 介護関連の入居施設に居住中の方

② 家族以外が健康管理や安否確認をするような，建物内に複数名が暮らす施設に居住中の方（生活や健康不安があり，他人を頼り自宅以外で同居する場合を含む）

③ 病院や有床診療所に入院中の方で，医学的には退院が可能と思われるものの，早期の退院予定が特にない場合（いわゆる社会的入院を含む）

判断が難しい場合には，施設スタッフと研究統括者の協議を行った．

### 1-3 調査方法

県透析医会の全150会員施設に対しアンケート用紙を配布し，2017年4月20日現在での施設毎の実態調査および施設責任者の意識調査を行った．

実態調査の主な項目は，透析患者数と自宅外居住患者数をはじめとして，医療機関や同一法人内で介護関連の入居施設を併設しているか否か，および透析施設による送迎サービスが行われているか否かとした．

意識調査の主な項目は，自院を念頭に自宅外居住患者が今後増えるかどうかの将来予想と，自施設と患者が居住する各入居施設との患者の情報交換や連携状況（以下，連携状況と略）の感想を択一で選択させる方法とした．

さらに，自宅外居住患者が一人でもいる施設に対しては，該当患者全員に対して詳細な個人調査を依頼し，医師またはスタッフが本人や家族から対面で聞き取り調査を行い，施設回答を基に研究統括者が集計した（該当者回答率100%）．

個別実態調査は自宅以外で生活を始めた理由，入居施設タイプ，期間などを主な項目としたが，患者を特定するような情報は患者が治療中の施設のみが知り得るように限られ，研究統括者による患者の特定は不可能な形式で行った．

## 2 結 果

### 2-1 福岡県全体の実態

137施設の施設類別内訳は，大学病院が3，病院が58，有床診療所が29，無床診療所が47で，各病床数や患者数は調査対象の項目で記載した（表1）．自院や法人内で入居施設を併設して運営にあたっている（以下，入居施設ありと記載）割合は29.9%，入居施設なしは70.1%であった．外来患者に対し送迎サービスを実施している（以下，送迎サービスありと記載）割合は65.7%，送迎なしは34.3%であった．

慢性透析患者総数は11,674人で，腹膜透析が526人，血液透析と腹膜透析の併用患者は22人含まれ，自宅外居住患者の割合は8.2%（血液透析：8.4%，腹膜透析：2.5%）であった．

各施設責任者に対し，自院における自宅外居住患者数の将来的な推移予想（以下，将来予想と記載）を択

**表 1　県内地域別比較**

| | 地域内の調査参加施設数 | 施設類別 | | | | 入居施設を併設 | | 送迎サービス実施 | | 全透析患者数（腹膜透析を含む） | 左記のうち，自宅以外で居住する透析患者数 | 自宅以外の居住者の割合 | 自宅以外で居住する透析患者の将来推移予想 | | | | | 自透析施設と入居施設先の連携状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 大学病院 | 病院（病床数） | 有床診療所 | 無床診療所 | あり | なし | あり | なし | | | | 急速に増える | ゆっくり増える | 増えない | 今より減る | わからない | かなり問題 | 少し問題 | 問題はあまりない | 経験がない |
| 福　岡 | 57 | 1 | 24 (5,502) | 8 | 24 | 14 24.6% | 43 75.4% | 41 71.9% | 16 28.1% | 4,595 | **345** | **7.5%** | 9 15.8% | 42 73.7% | 1 1.7% | 0 0% | 5 8.8% | 4 7.0% | 25 43.9% | 18 31.6% | 10 17.5% |
| 北九州 | 39 | 1 | 13 (2,689) | 10 | 15 | 7 17.9% | 32 82.1% | 24 61.5% | 15 38.5% | 3,537 | **300** | **8.5%** | 3 7.7% | 33 84.6% | 0 0% | 0 0% | 3 7.7% | 5 12.8% | 19 48.7% | 13 33.3% | 2 5.1% |
| 筑　豊 | 13 | 0 | 6 (2,248) | 2 | 5 | 6 46.2% | 7 53.8% | 9 69.2% | 4 30.8% | 1,388 | **151** | **10.9%** | 4 30.8% | 8 61.6% | 0 0% | 0 0% | 1 7.7% | 1 7.7% | 10 76.9% | 2 15.4% | 0 0% |
| 筑　後 | 28 | 1 | 15 (4,009) | 9 | 3 | 14 50% | 14 50% | 16 57.1% | 12 42.9% | 2,154 | **157** | **7.3%** | 4 14.3% | 22 78.6% | 1 3.6% | 0 0% | 1 3.6% | 2 7.1% | 16 57.1% | 9 32.1% | 1 3.6% |
| 県全体 | 137 | 3 | 58 (14,448) | 29 | 47 | 41 29.9% | 96 70.1% | 90 65.7% | 47 34.3% | 11,674 | **953** | **8.2%** | 20 14.6% | 105 76.6% | 2 1.5% | 0 0% | 10 7.3% | 12 8.8% | 70 51.1% | 42 30.7% | 13 9.5% |

一方式で質問すると，「急速に増えると思う」が 14.6 %，「ゆっくり増えると思う」が 76.6%，「増えないと思う」が 1.5%，「今より減ると思う」は 0 施設，「わからない」が 7.3% であった．

自施設と患者入居施設との連携をどう感じるかを択一方式で質問すると，「かなり問題と感じる」が 8.8%，「少し問題と感じる」が 51.1%，「問題はあまり無いと感じる」が 30.7%，「経験がない」が 9.5% であった．

### 2-2　地域別の実態

県内を 4 ブロックに分け比較した．人口 153 万人の福岡市を中心に都市部人口が比較的多い福岡地区が 58 施設，人口 95 万人の北九州市を中心に都市部人口が比較的多い北九州地域が 38 施設，人口 12 万人の飯塚市を中心に比較的都市部人口が少ない筑豊地区が 13 施設，人口 30 万人の久留米市を中心に比較的都市部人口が少ない筑後地区が 28 施設で，各地区の大学病院，病院，有床診療所，無床診療所の内訳，入居施設併設状況，送迎サービスの実施状況，将来予想，連携状況を示す（表 1）．

福岡地区の自宅外居住患者は 7.5% で県平均よりやや低かった．無床診療所の割合が有床より高く，送迎サービスを行う割合が高く，入居施設との連携の経験がない割合が比較的高かった．将来予想は県全体と類似したものであった．

北九州地区の自宅外居住患者は 8.5% で県全体と類似していたが，入居施設のない割合がやや高かった．将来予測では「ゆっくり増える」とする回答が多く，連携は「かなり問題」と感じる割合が比較的多かった．

筑豊地区の自宅外居住患者は 10.9% で県内では最も高い割合で，入居施設ありの施設が福岡や北九州地区に比較し高かった．「急速に増える」との予想も県内で最も高く，逆に連携に「問題があまりない」との回答は最も低かった．

筑後地区の自宅外居住患者は 7.3% と県平均よりやや低く，他地域に比較し病院や有床診療所をあわせた割合が高く，入居施設ありの透析施設が最も高かった．送迎サービスありの施設はやや少ないが，将来予想や連携状況は県全体とほぼ類似の傾向であった．

### 2-3　施設類別の実態

4 種類に施設類別して比較した．各施設類別の数，地区別内訳，入居施設併設状況，送迎サービスの実施状況，将来予想，連携状況を示す（表 2）．県内 3 大学病院で自宅外居住患者はいなかった．大学病院では「今後も増えないだろう」と将来予測し，連携に関し「経験がない」との回答が多かった．

58 病院の平均病床数は約 250 床，自宅外居住患者は 10.0% とやや多かった．入居施設ありが他に比較し多いが，送迎サービス実施は診療所と比較し少なかった．「急速に増える」との将来予想と，連携状況は「かなり問題」との回答が診療所の約 2 倍と多く，自宅外居住患者問題に最も深刻さを感じていた．

有床診療所の自宅外居住患者は施設類別では最も高かった．無床診療所の自宅外居住患者は病院や有床診療所の 40% 以下と比較的低く，入居施設の併設や送迎サービス実施に関しても有床診療所が比較的高率であった．両者の将来予想は類似していたが，連携に関

表 2　施設類別比較

| | 県全体（病床数） | 地域別（病床数） | | | | 入居施設を併設 | | 送迎サービス実施 | | 全透析患者数（腹膜透析を含む） | 左記のうち，自宅以外で居住する透析患者数 | 自宅以外の居住者の割合 | 自宅以外で居住する透析患者の将来推移予想 | | | | | 自透析施設と入居施設先の連携状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 福岡 | 北九州 | 筑豊 | 筑後 | あり | なし | あり | なし | | | | 急速に増える | ゆっくり増える | 増えない | 今より減る | わからない | かなり問題 | 少し問題 | 問題はあまりない | 経験がない |
| 大学病院 | 3 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0<br>0% | 3<br>100% | 0<br>0% | 3<br>100% | 126 | 0 | 0.0% | 0<br>0% | 1<br>33.3% | 2<br>66.7% | 0<br>0% | 0<br>0% | 0<br>0% | 1<br>33.3% | 0<br>0% | 2<br>66.7% |
| 病　院 | 58<br>(14,448) | 24<br>(5,502) | 13<br>(2,689) | 6<br>(2,248) | 15<br>(4,009) | 33<br>56.9% | 25<br>43.1% | 28<br>48.3% | 30<br>51.7% | 4,870 | **486** | **10.0%** | 12<br>20.7% | 44<br>75.9% | 0<br>0% | 0<br>0% | 2<br>3.4% | 6<br>10.3% | 29<br>50% | 19<br>32.8% | 4<br>6.9% |
| 有床診療所 | 29 | 8 | 10 | 2 | 9 | 4<br>13.8% | 25<br>86.2% | 25<br>86.2% | 4<br>13.8% | 2,963 | **317** | **10.7%** | 3<br>10.3% | 22<br>75.9% | 0<br>0% | 0<br>0% | 4<br>13.8% | 3<br>5.2% | 21<br>72.4% | 4<br>13.8% | 1<br>3.7% |
| 無床診療所 | 47 | 24 | 15 | 5 | 3 | 4<br>8.5% | 43<br>91.5% | 37<br>78.7% | 10<br>21.3% | 3,715 | **150** | **4.0%** | 5<br>10.6% | 38<br>80.9% | 0<br>0% | 0<br>0% | 4<br>8.5% | 3<br>6.4% | 19<br>40.4% | 19<br>40.4% | 6<br>12.8% |
| 県全体 | 137 | 57 | 39 | 13 | 28 | 41<br>29.9% | 96<br>70.1% | 90<br>65.7% | 47<br>34.3% | 11,674 | **953** | **8.2%** | 20<br>14.6% | 105<br>76.6% | 2<br>1.5% | 0<br>0% | 10<br>7.2% | 12<br>8.8% | 70<br>51.1% | 42<br>30.7% | 13<br>9.5% |

しては有床診療所のほうが「問題がある」との回答が多い傾向がみられた．無床診療所では過半数の施設が「連携の経験がない」，または「問題はあまりない」と回答した．

### 2-4　入居施設併設の有無の実態

入居施設併設の有無で類別し比較した．それぞれの地域別の内訳，施設類別の内訳，送迎サービスの実施状況，将来予想，連携状況を示す（表 3）．

入居施設ありの割合は筑豊および筑後地区で約 50 % と比較的高く，自宅外居住患者の割合は入居施設無しに比較し高かった．入居施設ありは大学病院や診療所に比べ病院で高かったが，平均病床数に大差はなかった（あり：241 床，なし：259 床）．入居施設なしに比べ「急速に増える」と将来予想する施設が多く，連携に関し「問題はあまりない」との回答が比較的多かった．

### 2-5　送迎サービス実施の有無の実態

送迎サービス実施の有無で類別し比較した．それぞれの地域別の内訳，施設類別の内訳，入居施設の併設状況，将来予想，連携状況を示す（表 4）．

送迎サービス実施ありは診療所が多く，病院では比較的病床数が少ないほうが実施する傾向がみられた（送迎あり：176 床，送迎なし：317 床）．実施ありの施設での自宅外居住患者割合は実施なし施設の約 2 倍と，高い傾向があった．両者間で将来予想と連携に関する回答は類似していたが，実施していない施設では「連携の経験が無い」との回答が比較的多かった．

### 2-6　将来予想に関する意識の実態

各透析施設の将来予想を四つに類別して比較を行った．それぞれの地区別内訳，施設類別の内訳，入居施設併設状況，送迎サービスの実施状況，連携状況を示す（表 5）．

「急速に増える」と考える施設と「ゆっくり増え

表 3　入居施設の有無別比較

| | 県全体 | 地域別 | | | | 施設類別 | | | | 送迎サービス実施 | | 全透析患者数（腹膜透析を含む） | 左記のうち，自宅以外で居住する透析患者数 | 自宅以外の居住者の割合 | 自宅以外で居住する透析患者の将来推移予想 | | | | | 自透析施設と入居施設先の連携状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 福岡 | 北九州 | 筑豊 | 筑後 | 大学病院 | 病院（病床数） | 有床診療所 | 無床診療所 | あり | なし | | | | 急速に増える | ゆっくり増える | 増えない | 今より減る | わからない | かなり問題 | 少し問題 | 問題はあまりない | 経験がない |
| 入居施設あり | 41 | 14 | 7 | 6 | 14 | 0 | 33<br>(7,964) | 4 | 4 | 25<br>61.0% | 16<br>39.0% | 3,436 | **337** | **9.8%** | 7<br>17.1% | 33<br>80.5% | 0<br>0% | 0<br>0% | 1<br>2.4% | 4<br>9.8% | 20<br>48.8% | 16<br>39.0% | 1<br>2.4% |
| 入居施設なし | 96 | 43 | 32 | 7 | 14 | 3 | 25<br>(6,484) | 25 | 43 | 65<br>67.7% | 31<br>32.3% | 8,238 | **618** | **7.5%** | 13<br>13.5% | 72<br>75.0% | 2<br>2.1% | 0<br>0% | 9<br>9.4% | 8<br>8.3% | 50<br>52.1% | 26<br>27.1% | 12<br>12.5% |
| 県全体 | 137 | 57 | 39 | 13 | 28 | 41 | 58<br>(14,448) | 29 | 47 | 90<br>65.7% | 47<br>34.3% | 11,674 | **953** | **8.2%** | 20<br>14.6% | 105<br>76.6% | 2<br>1.5% | 0<br>0% | 10<br>7.3% | 12<br>8.8% | 70<br>51.1% | 42<br>30.7% | 13<br>9.5% |

**表 4　送迎サービスの有無別比較**

| | 県全体 | 地域別 | | | | 施設類別 | | | | 入居施設 | | 全透析患者数（腹膜透析を含む） | 左記のうち，自宅以外で居住する透析患者数 | 自宅以外の居住者の割合 | 自宅以外で居住する透析患者の将来推移予想 | | | | | 自透析施設と入居施設先の連携状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 福岡 | 北九州 | 筑豊 | 筑後 | 大学病院 | 病院（病床数） | 有床診療所 | 無床診療所 | あり | なし | | | | 急速に増える | ゆっくり増える | 増えない | 今より減る | わからない | かなり問題 | 少し問題 | 問題はあまりない | 経験がない |
| 送迎サービスあり | 90 | 41 | 24 | 9 | 16 | 0 | 28 (4,937) | 25 | 37 | 25 27.8% | 65 72.2% | 8,542 | **801** | **9.4%** | 11 12.2% | 73 81.1% | 0 0% | 0 0% | 6 6.7% | 8 8.9% | 51 56.7% | 30 33.3% | 1 1.1% |
| 送迎サービスなし | 47 | 16 | 15 | 4 | 12 | 3 | 30 (9,511) | 4 | 10 | 16 34.0% | 31 66.0% | 3,132 | **153** | **4.9%** | 9 19.1% | 32 68.1% | 2 4.3% | 0 0% | 4 8.5% | 4 8.5% | 19 40.4% | 12 25.5% | 12 25.5% |
| 県全体 | 137 | 57 | 39 | 13 | 28 | 3 | 58 (14,448) | 29 | 47 | 41 29.9% | 96 70.1% | 11,674 | **953** | **8.2%** | 20 14.6% | 105 76.6% | 2 1.5% | 0 0% | 10 7.3% | 12 8.8% | 70 51.1% | 42 30.7% | 13 9.5% |

**表 5　将来予想別比較（自宅以外で居住する透析患者の将来推移予想）**

| | 県全体 | 地域別 | | | | 施設類別 | | | | 入居施設 | | 送迎サービス実施 | | 全透析患者数（腹膜透析を含む） | 左記のうち，自宅以外で居住する透析患者数 | 自宅以外の居住者の割合 | 自透析施設と入居施設先の連携状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 福岡 | 北九州 | 筑豊 | 筑後 | 大学病院 | 病院（病床数） | 有床診療所 | 無床診療所 | あり | なし | あり | なし | | | | かなり問題 | 少し問題 | 問題はあまりない | 経験がない |
| 急速に増える | 20 | 9 | 3 | 4 | 4 | 0 | 12 (3,213) | 3 | 5 | 7 35.0% | 13 65.0% | 11 55.0% | 9 45.0% | 1,557 | **136** | **8.7%** | 5 25.0% | 11 55.0% | 3 15.0% | 1 5.0% |
| ゆっくり増える | 105 | 42 | 33 | 8 | 22 | 1 | 44 (10,672) | 22 | 38 | 33 31.4% | 72 68.6% | 73 69.5% | 32 30.5% | 9,364 | **782** | **8.4%** | 7 6.7% | 56 53.3% | 36 34.3% | 6 5.7% |
| 増えない | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 0% | 2 100% | 0 0% | 2 100% | 125 | 0 | 0.0% | 0 0% | 0 0% | 0 0% | 2 100% |
| わからない | 10 | 5 | 3 | 1 | 1 | 0 | 2 (563) | 4 | 4 | 1 10.0% | 9 90.0% | 6 60.0% | 4 40.0% | 628 | 35 | 5.6% | 0 0% | 3 30% | 3 30% | 4 40% |
| 県全体 | 137 | 57 | 39 | 13 | 28 | 2 | 58 (14,448) | 29 | 47 | 41 29.9% | 96 70.1% | 90 65.7% | 47 34.3% | 11,674 | **953** | **8.2%** | 12 8.8% | 70 51.1% | 42 30.7% | 13 9.5% |

**表 6　透析施設と入居施設の連携状況別比較**

| | 県全体 | 地域別 | | | | 施設類別 | | | | 入居施設 | | 送迎サービス実施 | | 全透析患者数（腹膜透析を含む） | 左記のうち，自宅以外で居住する透析患者数 | 自宅以外の居住者の割合 | 自宅以外で居住する透析患者の将来予想 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 福岡 | 北九州 | 筑豊 | 筑後 | 大学病院 | 病院（病床数） | 有床診療所 | 無床診療所 | あり | なし | あり | なし | | | | 急速に増える | ゆっくり増える | 増えない | わからない |
| かなり問題 | 12 8.8% | 4 | 5 | 1 | 2 | 0 | 6 (2,240) | 3 | 3 | 4 33.3% | 8 66.7% | 8 66.7% | 4 33.3% | 1,040 | 61 | 5.9% | 5 41.7% | 7 58.3% | 0 0% | 0 0% |
| 少し問題 | 70 51.1% | 25 | 19 | 10 | 16 | 1 | 29 (7,169) | 21 | 19 | 20 28.6% | 50 71.4% | 51 72.9% | 19 27.1% | 6,320 | **628** | **9.9%** | 11 15.7% | 56 80.0% | 0 0% | 3 4.3% |
| 問題はあまりない | 42 30.7% | 18 | 13 | 2 | 9 | 0 | 19 (4,065) | 4 | 19 | 16 38.1% | 26 61.9% | 30 71.4% | 12 28.6% | 3,467 | **263** | **7.6%** | 3 7.1% | 36 85.7% | 0 0% | 3 7.1% |
| 経験がない | 13 9.5% | 10 | 2 | 0 | 1 | 2 | 4 (974) | 1 | 6 | 1 7.7% | 12 92.3% | 1 7.7% | 12 92.3% | 847 | 1 | 0.1% | 1 7.7% | 6 46.2% | 2 15.4% | 4 30.8% |
| 県全体 | 137 | 57 | 39 | 13 | 28 | 3 | 58 (14,448) | 29 | 47 | 41 29.9% | 96 70.1% | 90 65.7% | 47 34.3% | 11,674 | **953** | **8.2%** | 20 14.6% | 105 76.6% | 2 1.5% | 10 7.3% |

る」と考える施設での自宅外居住患者の割合に差はなく，両者間には入居施設の有無や送迎サービスの有無，病床数にも明らかな差は認めなかった．ただ，「急速に増える」と考える施設での連携状況は，「かなり問題」とする割合が多く，「問題はあまりない」との回答は少なかった．

### 2-7 入居施設との連携に関する意識の実態

各透析施設の入居施設との連携に関する意識を類別して比較した．それぞれの地区別内訳，入居施設併設状況，送迎サービスの実施状況，将来予想を示す（表6）．

最も自宅外居住患者の割合が大きかったのは「少し問題」と回答した施設で，「問題があまりない」と「かなり問題」が続くが，連携状況との関連は見られなかった．「かなり問題」と回答した施設の41.7%が将来予想を「急速に増える」と回答したのに対し，「問題があまりない」と回答した施設では7.7%と，連携状況と将来予想には相互関連が認められた．病院の平均病床数と連携状況には一定の傾向があった（かなり問題：373床，少し問題：247床，問題なし：213床）．

## 3 考 察

高齢透析患者の介護問題に関し，福岡県透析医会は実態調査を行い報告してきた．他県でも類似の実態調査報告が行われ，重要課題と思われる[5]．

これまでの実態調査で，介護関連施設で暮らす患者が3.4%，退院の目途がたたない長期入院の患者が4.8%存在することを示したが，いわゆる社会的入院も少なからず含まれると思われた．同調査において独居患者が15%，高齢者のみの世帯と合わせると50%を超える実態や，要介護者の多さ，通院が大きな外来透析患者の負担となっている実態も示した．

「自宅外居住患者」の実態に関し，日本透析医会の調査を始め，いくつかのアンケート調査が行われてきた[6,7]．独居率や施設入居率や長期入院率に関してやや差があるのは，対象とする年齢や回答率，地域差などによることが推測されるが，新しい報告ほど独居率は増えている[2,8]．それらにより，透析患者の実態とともに多くの課題が示されてきたが，福祉制度や介護保険制度を含め社会情勢や国の施策は数年の単位で大きく変化し，家族の高齢透析患者を支える力は弱くなり，身体的にも精神的にも経済的にも住み慣れた家庭で生活を続けていくことが難しいと感じた自宅外居住患者が増えている印象がある．社会的入院は今後も制限され続けると思われるが，介護関連入居施設に関しては様々な形態ができ，透析施設が経営する入居施設や介護施設も増え，透析患者も利用しやすくなりつつある．

このことは患者の全人的ケアを担うべき透析施設のスタッフにも治療時間以外の問題への配慮が要求される事態を引き起こしている．送迎サービスの問題，入居施設との連携問題，別居する透析患者の家族や縁者とのコミュニケーション問題など，日々留意すべきデリケートな課題が多く，今後ますます増えることが予想される．

今回「自宅外居住患者の実態を調査する」という観点から，調査対象をこれまでの県透析医会役員の施設全24施設から県透析医会150施設に拡大し137施設より回答を得た．これまでの65歳以上から全年齢を対象として調査を行ったが，報告すべき分量の関係から本論文ではまず透析施設の実態調査について報告する．各自宅外居住患者に関し，自宅以外で居住するに至った理由を始め，様々な個別調査の項目をまとめた結果は別論文として報告する予定である．

2017年4月時点で県全体の自宅外居住患者割合は8.2%で，定義と調査対象および調査施設数が異なるものの，以前報告した長期入院と介護関連施設入居者の合計8.2%と同等であった[2]．旧産炭地で都市部人口が少なく通院距離も長い筑豊地区と，福岡市を中心とした福岡地区との差は大きい（各10.9%，7.5%）．農林水産業の人口比率が多い筑後地区は大都市こそないものの比較的交通手段や医療資源に恵まれている．入居施設を併設する透析施設や有床診療所の割合が多いが，自宅外居住患者割合は県平均よりやや低かった．介護保険認定率や通院方法や独居率なども地域差があったが，それらも影響すると思われる[2]．

自宅外居住患者の将来増減予想や，患者が居住する入居施設との相互連携に関しては，介護関連施設を運営している場合と運営していない場合とでは差があり，病院の規模による差もみられた．入院施設を有したり入居施設を併設する医療機関のほうが，介護問題を身近に感じ切実にとらえ積極的に対応している印象を受ける．重症や急性期患者の比率が多い大規模総合病院より，小規模病院や有床診療所のほうがニーズに応じた介護問題への取り組みがスムーズで連携も比較的できていると思われる．

自宅外居住患者の実態は，地域別，病院規模を含めた施設類別，介護事業の取り組み状況などにより県内でも大きく差があるが，各透析医療機関における認識

**表７　実態調査参加協力施設一覧**

| ブロック | 住所 | 透析施設名 | 施設類型 |
|---|---|---|---|
| 福岡 | 福岡市 | 福岡大学病院 | 大学病院 |
| | 〃 | 村上華林堂病院 | 病院 |
| | 〃 | 福岡赤十字病院 | 病院 |
| | 〃 | 九州中央病院 | 病院 |
| | 〃 | 九州医療センター | 病院 |
| | 〃 | 那珂川病院 | 病院 |
| | 〃 | 原三信病院 | 病院 |
| | 〃 | 福岡総合病院 | 病院 |
| | 〃 | 福岡市民病院 | 病院 |
| | 〃 | ふくみつ病院 | 病院 |
| | 〃 | 千鳥橋病院 | 病院 |
| | 〃 | 浜の町病院 | 病院 |
| | 〃 | 博腎会病院 | 病院 |
| | 〃 | 西福岡病院 | 病院 |
| | 〃 | 原病院 | 病院 |
| | 宗像市 | 森都病院 | 病院 |
| | 〃 | 宗像医師会病院 | 病院 |
| | 福津市 | 宗像水光会総合病院 | 病院 |
| | 筑紫野市 | 高山病院 | 病院 |
| | 〃 | 済生会二日市病院 | 病院 |
| | 糟屋郡 | 仲原病院 | 病院 |
| | 〃 | 岡部病院 | 病院 |
| | 〃 | 加野病院 | 病院 |
| | 〃 | 上野外科胃腸科病院 | 病院 |
| | 〃 | 福岡青洲会病院 | 病院 |
| | 福岡市 | くまクリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | はこざき公園内科医院 | 有床診療所 |
| | 〃 | 後藤クリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | ピーエスクリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | 古原医院 | 有床診療所 |
| | 〃 | 重松クリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | 松口胃腸科外科医院 | 有床診療所 |
| | 糸島市 | 宮内内科循環器科 | 有床診療所 |
| | 福岡市 | はせ川クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | おおはし内科循環器内科医院 | 無床診療所 |
| | 〃 | 有吉クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | よしとみ内科クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 福岡腎臓内科クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | むらやま泌尿器科クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 大里腎クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 池田バスキュラーアクセス | 無床診療所 |
| | 〃 | 呉服町腎クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 信愛クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 三井島内科クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | やなせ内科医院 | 無床診療所 |
| | 〃 | 天神オーバーナイト透析＆内科 | 無床診療所 |
| | 〃 | 賀茂クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 三光クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 三愛クリニック | 無床診療所 |
| | 宗像市 | 赤間腎クリニック | 無床診療所 |
| | 古賀市 | 加野クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | トーマ・クリニック | 無床診療所 |
| | 糸島市 | 伊都クリニック | 無床診療所 |
| | 春日市 | 安永クリニック | 無床診療所 |
| | 筑紫野市 | 島松内科医院 | 無床診療所 |
| | 大野城市 | 本村内科医院 | 無床診療所 |
| | 糟屋郡 | うえの腎透析クリニック | 無床診療所 |
| 筑豊 | 飯塚市 | 飯塚病院 | 病院 |
| | 田川市 | 一本松すずかけ病院 | 病院 |
| | 〃 | 田川市立病院 | 病院 |
| | 直方市 | 直方病院 | 病院 |
| | 嘉麻市 | 西野病院 | 病院 |
| | 鞍手郡 | くらて病院 | 病院 |
| | 飯塚市 | 鯰田診療所 | 有床診療所 |
| | 直方市 | 高橋内科クリニック | 有床診療所 |
| | 飯塚市 | 西田内科クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | おおやぶクリニック | 無床診療所 |
| | 田川市 | 百武医院 | 無床診療所 |
| | 〃 | 木村クリニック　川宮医院 | 無床診療所 |
| | 嘉穂郡 | 桂川腎クリニック | 無床診療所 |
| 北九州 | 北九州市 | 産業医科大学病院 | 大学病院 |
| | 〃 | 小倉記念病院 | 病院 |
| | 〃 | 済生会八幡総合病院 | 病院 |
| | 〃 | 小倉第一病院 | 病院 |
| | 〃 | 戸畑けんわ病院 | 病院 |
| | 〃 | 戸畑共立病院 | 病院 |
| | 〃 | 新王子病院 | 病院 |
| | 〃 | 佐々木病院 | 病院 |
| | 〃 | 芳野病院 | 病院 |
| | 〃 | 九州労災病院門司センター | 病院 |
| | 〃 | 新小文字病院 | 病院 |
| | 中間市 | 中間市立病院 | 病院 |
| | 〃 | 新中間病院 | 病院 |
| | 遠賀郡 | 芦屋中央病院 | 病院 |
| | 北九州市 | 今村クリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | 聖和クリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | たかぼうクリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | きしもとクリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | ひがしだクリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | 天神クリニック | 有床診療所 |
| | 〃 | 北九州腎臓クリニック | 有床診療所 |
| | 行橋市 | 行橋クリニック | 有床診療所 |
| | 豊前市 | みぞぐち泌尿器科クリニック | 有床診療所 |
| | 遠賀郡 | 水巻クリニック | 有床診療所 |
| | 北九州市 | 門司港腎クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 松島クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 吉祥寺クリニック | 無床診療所 |
| | 北九州市 | かわい泌尿器科クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 門司クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 宮崎医院 | 無床診療所 |
| | 〃 | 北九州ネフロクリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | たまき腎クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 医生ケ丘クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 折尾クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 城野クリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 新北九州腎臓クリニック | 無床診療所 |
| | 遠賀郡 | 楠本内科医院 | 無床診療所 |
| | 〃 | ひびきクリニック | 無床診療所 |
| | 〃 | 岡垣腎クリニック | 無床診療所 |
| 筑後 | 久留米市 | 久留米大学病院 | 大学病院 |
| | 〃 | 聖マリア病院 | 病院 |
| | 〃 | 古賀病院２１ | 病院 |
| | 〃 | JCHO 久留米総合病院 | 病院 |
| | 〃 | 田主丸中央病院 | 病院 |
| | 〃 | 安本病院 | 病院 |
| | 〃 | 花畑病院 | 病院 |
| | 大牟田市 | 杉循環器科内科病院 | 病院 |
| | 〃 | 大牟田市立病院 | 病院 |
| | 〃 | 米の山病院 | 病院 |
| | 大川市 | 高木病院 | 病院 |
| | 小郡市 | 丸山病院 | 病院 |
| | 朝倉市 | 朝倉健生病院 | 病院 |
| | みやま市 | ヨコクラ病院 | 病院 |
| | 八女市 | 公立八女総合病院 | 病院 |
| | 八女郡 | 姫野病院 | 病院 |
| | 久留米市 | 吉武泌尿器科医院 | 有床診療所 |
| | 〃 | 松尾内科医院 | 有床診療所 |
| | 〃 | 今立内科クリニック | 有床診療所 |
| | 大牟田市 | 春日医院 | 有床診療所 |
| | 〃 | 飯田クリニック | 有床診療所 |
| | 小郡市 | 山下泌尿器科医院 | 有床診療所 |
| | 朝倉市 | 森山内科 | 有床診療所 |
| | 筑後市 | ちくご医院 | 有床診療所 |
| | 〃 | 中村クリニック | 有床診療所 |
| | 大牟田市 | むとう内科クリニック | 無床診療所 |
| | 柳川市 | 村石循環器内科 | 無床診療所 |
| | うきは市 | うすい内科・循環器科 | 無床診療所 |

の違いとも密接に関連していると考えられる．積極的に介護や通院問題に取り組む施設とそうでない施設の差が大きい．全国でも地域ごと医療機関ごとに大きな認識の差があるのではないかと思われる．また，大都市圏の市街地の患者と都市部でない地域で暮らす患者には大きな生活実態の差があろう．全国一律の医療や介護保険制度であるが，よりきめ細かな患者対応が大切である．

## おわりに

高齢透析患者の介護問題を様々に検討してきたが，自立している患者以外は家族の協力が不可欠で，独居においては介護度の悪化から施設入居を余儀なくされる場合が少なくない．介護施設側の負担は，病状変化時の対応，透析施設への送迎など様々にあり，透析患者を受け入れない介護施設も多い．患者自身も将来不安を抱え葛藤しながら治療を続けており，患者や家族と透析医療機関や介護関連施設とが互いに問題点を共有しつつ支える取り組みが必要である．すでに介護問題に積極的に取り組んでいる透析施設だけでなく，行政と協力しながら地域包括ケアシステムの趣旨を生かし，地域社会で連携して取り組むことが肝要と思われる．透析医療は生涯医療であると同時に生活者支援の側面も大きく，診療報酬や福祉予算の観点からも今回の実態調査の結果などを国や自治体と共有したい．

## 謝　意

本調査に協力いただいた福岡県透析医会会員，ならびに回答をいただいた137医療機関の各施設のスタッフに感謝いたします（表7）．

## 文　献

1) 日本透析医学会統計調査委員会編：図説 わが国の慢性透析療法の現況（2016年12月31日現在）．東京：（社）日本透析医学会，2016.
2) 村石昭彦，隈　博政，菰田哲夫，他：福岡県における高齢透析患者の介護関連実態調査報告―2014年2月現在―．日透医誌　2015；30(1)：108-121.
3) 村石昭彦，下池英明，隈　博政，他：福岡県における高齢透析患者の介護関連実態調査報告（第2報）―短期予後に関する調査（2015年2月現在）―．日透医誌　2016；31(1)：109-122.
4) 村石昭彦，下池英明，隈　博政，他：福岡県における高齢透析患者の介護関連実態調査報告（第3報）―2年間の予後および要介護度変化等に関する調査（2016年2月現在）―．日透医誌　2017；32(2)：243-254.
5) 上山達典，萩原隆二，四枝晧二：鹿児島県の高齢透析患者介護関連実態調査報告―2016年3月現在―．日透医誌　2016；31(3)：569-583.
6) 太田圭洋，隈　博政，山川智之，他：通院困難な透析患者への対応及び長期入院患者の実態調査．日透医誌　2007；22(3)：342-357.
7) 杉崎弘章，太田圭洋，山川智之，他：透析患者の高齢化・長期化による問題点と透析提供体制に関する将来予測．日透医誌　2013；28(1)：80-93.
8) 前田兼徳，宮崎正信，原田孝司：透析患者を支える医療連携の現状と今後の課題―長崎県におけるアンケート調査から考える―．日透医誌　2015；30(2)：219-224.